

平成29年度 新教育課程説明会 【生活】

学習指導要領改訂のポイントについて

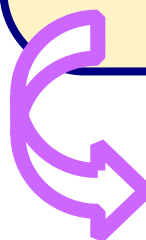
期日：平成29年9月15日（金）
会場：群馬県総合教育センター

これまでの成果

(p5)

平成20年改訂の学習指導要領では…

- 活動や体験を一層重視する
- 気付きの質を高めること
- 幼児期の教育との連携を図ること など



成果として…

- 言葉と体験を重視した改訂の趣旨がおおむね反映

生活科の更なる充実に向けての課題

(p5、6)

- 具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する。
- 幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にする。
- スタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とする。
- 中学年の各教科等への接続を明確にすること。

県内公立幼稚園における小学校との連携状況

平成28年度 文科省調査より

連携内容	小学校と
①幼児や児童との交流	96%(全国80.2%)
②教師同士の交流	95%(全国76.2%)
③教育課程の編成に当たっての情報交換	50%(全国54.8%)

＜幼稚園における小学校等と連携をした取組内容＞

- 学校探検や授業参観
- 園児と児童の交流
- 運動会への参加
- 合同行事
- 小学校入学時の情報交換
- 幼稚園と小学校の園・校内研修内容についての情報交換
- 幼保小連絡会議
- 地区ブロック研修会
- 教職員による幼保小連携推進委員会
- 幼児児童の目指す姿を掲げ、ねらいにそって幼児と児童の交流活動や職員同士の話し合いを計画的に実施し、反省評価をもとに教育課程に位置づけていった。
- 「スタートカリキュラム」「アプローチカリキュラム」の作成についての情報交換

改訂の要点（４点） (p6、7)

① 改訂の基本的な考え方

- ・ 体験的な学習を通して育成する資質・能力の具体化

② 目標の改善

- ・ 自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを明確化

③ 内容構成の改善

- ・ 3つに整理

〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕

〔身近な人々、社会及び自然と関わる生活に関する内容〕

〔自分自身の生活や成長に関する内容〕

改訂の要点（４点） (p6、7)

④ 学習内容、学習指導の改善・充実

- ・ 各内容項目の見直し。
- ・ 多様に表現し考えたり、多様な学習活動を行ったりする活動を重視。
- ・ 動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視。
- ・ 低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することを明示。
- ・ 総合的な学びから自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初にスタートカリキュラムを行うことを明示。

生活科の教科目標

(p8)

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

知識及び技能の基礎

- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

思考力、判断力、表現力等の基礎

- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

生活科の教科目標の構成 (p9)

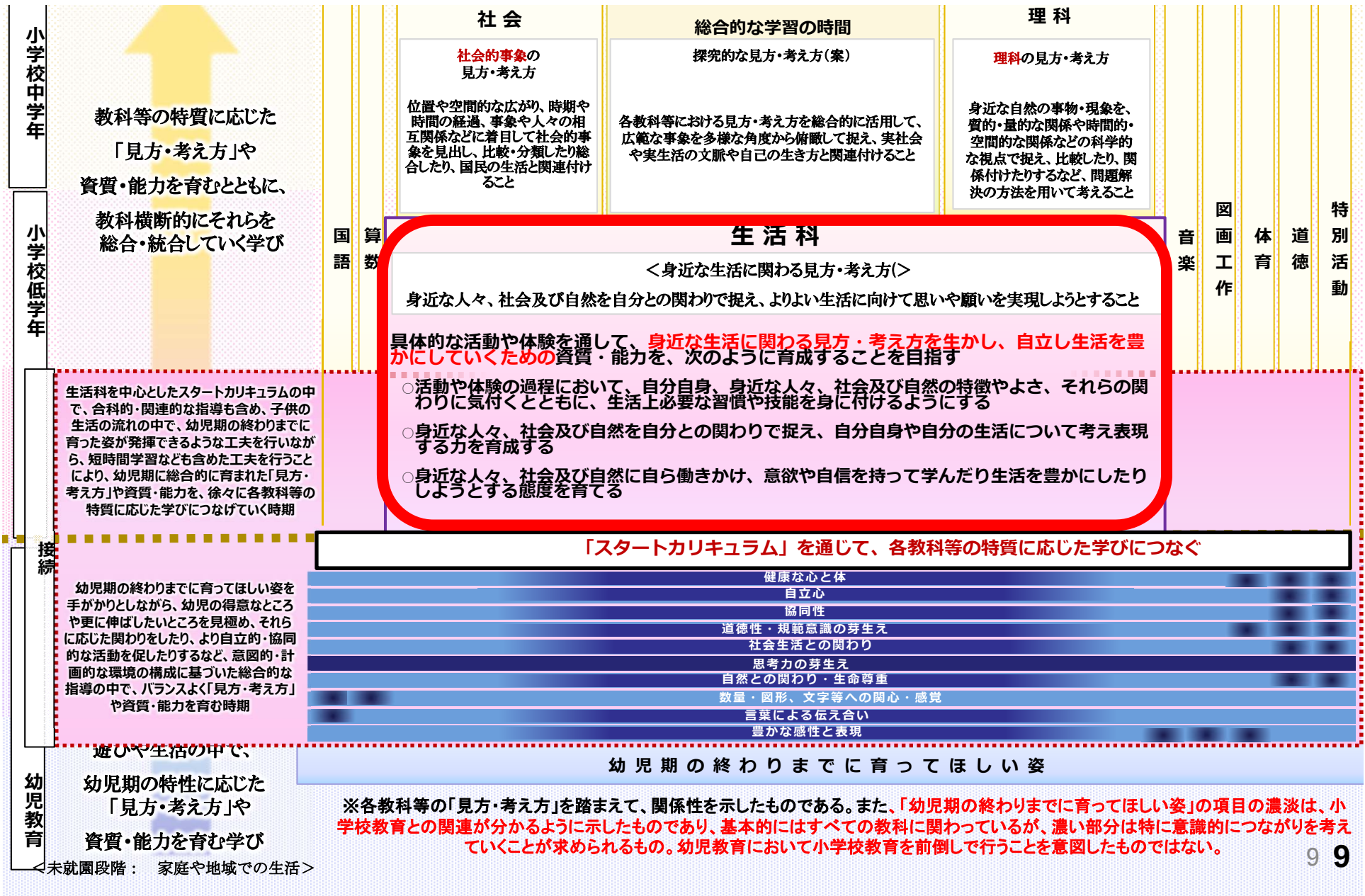
具体的な活動や体験を通して、
身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、

自立し生活を豊かにしていく

【育成を目指す資質・能力】

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。**知識及び技能の基礎**
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。**思考力、判断力、表現力等の基礎**
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。**学びに向かう力、人間性等**

生活科における教育のイメージ



学年の目標の構成

三つの階層を
基にして再構成

- (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わること
【 内容(1)～(3)】
- (2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり
関わったりすること 【 内容(4)～(8)】
- (3) 自分自身を見つめること
【 内容(9)】

※従来の学年目標（４）生活科特有の学び方に関すること

→第4章 2 内容の取扱いについての配慮事項（２）に移行

学年の目標

(p19)

- (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。

学年の目標

(p19)

- (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。

具体的な活動や体験

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

学年の目標

(p20)

(2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようになる。

学年の目標

(p20)

- (2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、 **それらを工夫したり楽しんだりすることができ、** **活動のよさや大切さに気づき、** **自分たちの遊びや生活をよりよくするようになる。**

学年の目標

(p21)

(3) 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようにする。

学年の目標

(p21)

- (3) 自分自身を見つめることを通して、**自分の生活**
や成長、身近な人々の支えについて考えることが
でき、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信
をもって生活するようになる。

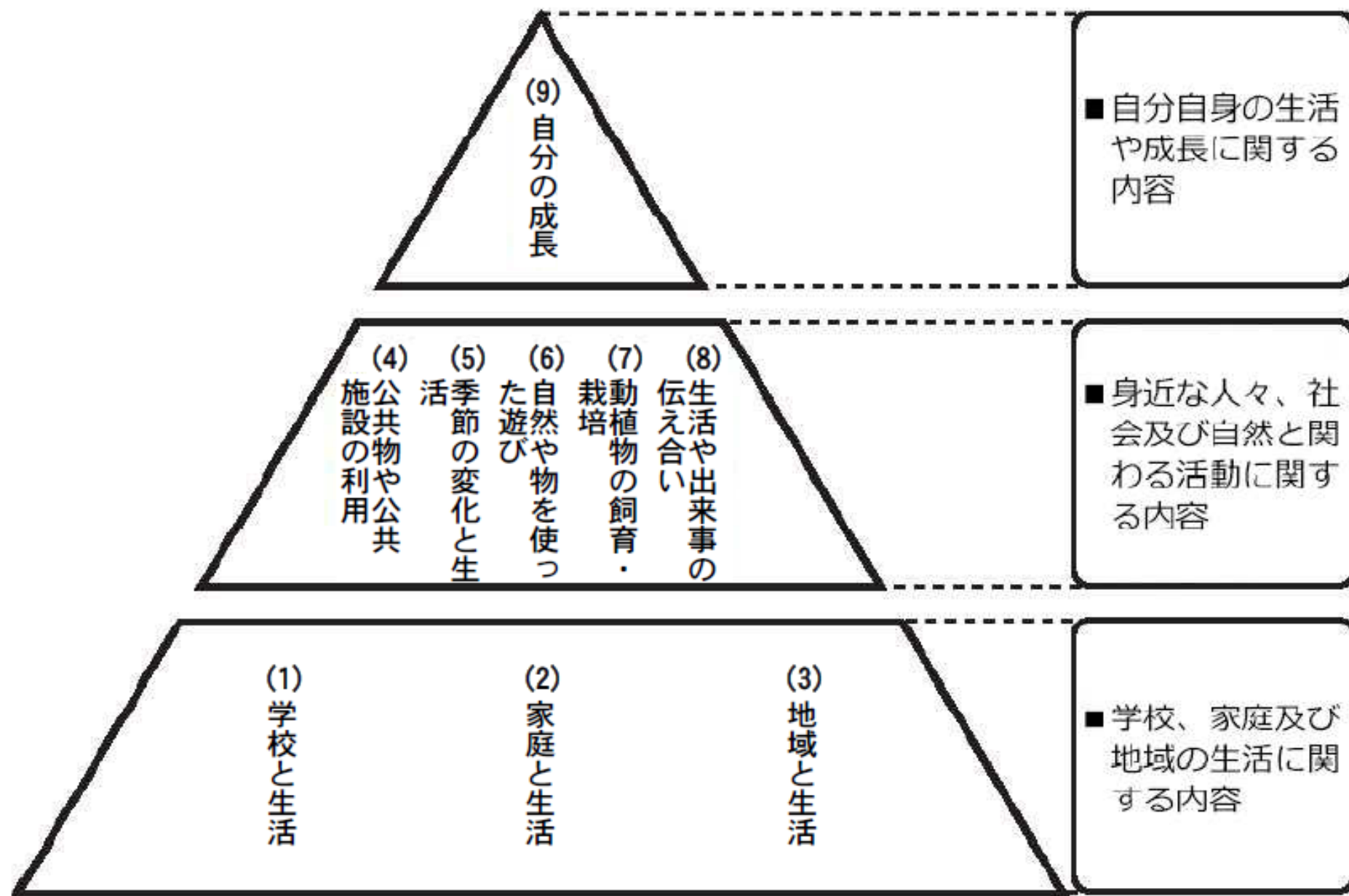
内容構成の具体的な視点 (p23)

- | | |
|---------------|------------------|
| ア. 健康で安全な生活 | カ. 情報と交流 |
| イ. 身近な人々との接し方 | キ. 身近な自然との触れ合い |
| ウ. 地域への愛着 | ク. 時間と季節 |
| エ. 公共の意識とマナー | ケ. 遊びの工夫 |
| オ. 生産と消費 | コ. 成長への喜び |
| | サ. 基本的な生活習慣や生活技能 |

具体的な学習対象

(p24)

- | | |
|--------------------------|--------------|
| ①. 学校の施設 | ⑧. 公共物 |
| ②. 学校で働く人 | ⑨. 公共施設 |
| ③. 友達 | ⑩. 地域の行事・出来事 |
| ④. 通学路 | ⑪. 身近な自然 |
| ⑤. 家族 | ⑫. 身近にある物 |
| ⑥. 家庭 | ⑬. 動物 |
| ⑦. 地域で生活したり
働いたりしている人 | ⑭. 植物 |
| | ⑮. 自分のこと |



生活科の内容のまとめ

出典 小学校学習指導要領解説 生活編(文部科学省)平成29年6月 一部抜粋

学校と生活

(p28)

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

学校と生活

(p28)

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、**学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ**、**学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり**、**楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。**

具体的な活動や体験

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

自然や物を使った遊び (p40)

- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

自然や物を使った遊び (p40)

- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

自分の成長

(p47)

- (9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

自分の成長

(p47)

- (9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、
自分のことや支えてくれた人々について考えること
ができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かること
ともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

指導計画作成上の配慮事項 (p50)

- 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。

◇「主体的な学び」の視点…学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接関わる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取組を促してきた。こうした点に加えて、表現を行い伝え合う活動の充実を図るようにする。

◇「対話的な学び」の視点…身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組んだり、伝え合ったり交流したりすることを大切にしたりするようにする。また、対象と直接関わり、対象とのやり取りをする中で、感じ、考え、気付くなどして対話的な学びが豊かに展開されるようにする。

◇「深い学び」の視点…「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気付きを生み出し関係的な気付きを獲得するなどの深い学びを実現するようにする。

※これらの視点から授業改善を図ることが重要

※必ず1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない

指導計画作成上の配慮事項

(p52、54)

- 児童の発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通して学習活動を設定すること。

※2年間の児童の発達や成長を見通して単元を構成し、配列すること。

- 内容（7）動植物の飼育・栽培については、2学年間にわたって取り扱うものとする。

指導計画作成上の配慮事項 (p55)

- 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めること。
- 幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。
- 生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うこと。

※スタートカリキュラムの編成

入学当初は幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくること。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることができるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

資料 1

小学校
以上

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

知識・技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

思考力・判断力・表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得・身体感覚の育成
- ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
- ・ 様々な気付き、発見の喜び
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解
- ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得等

遊びを通しての
総合的な指導

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い
- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 自分なりの表現
- ・ 表現する喜び等

- ・ 思いやり
- ・ 安定した情緒
- ・ 自信
- ・ 相手の気持ちの受容
- ・ 好奇心、探究心
- ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・ 話し合い、目的の共有、協力
- ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・ 自然現象や社会現象への関心等

学びに向かう力・人間性等

(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

・ 三つの円の中で例示される資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

へ環境を通して行う教育へ

幼児教育

指導計画作成上の配慮事項 (p62)

- 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

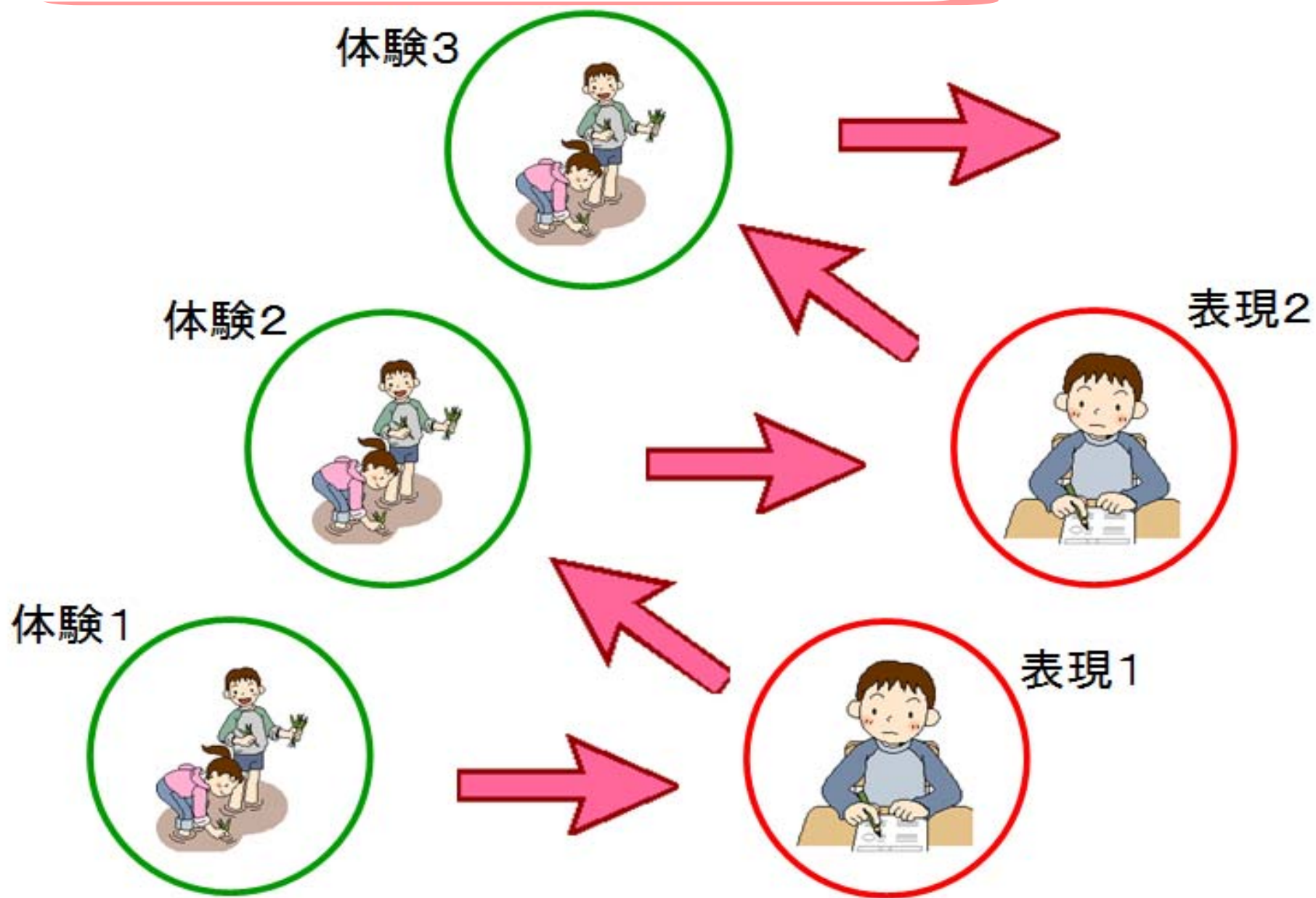
※一人一人の児童の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく。

内容の取扱いについての配慮事項 (p65)

- 言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法により表現し、考えることができるようにすること。また、このように表現し、考えることを通して、気づきを確かなものとしたり、気付いたことを関連付けたりすることができるよう工夫すること。

※体験活動と表現活動を相互に繰り返しながら気づきを自覚したり、関連付けたりすることが気づきの質を高めること。

体験活動と表現活動の相互作用



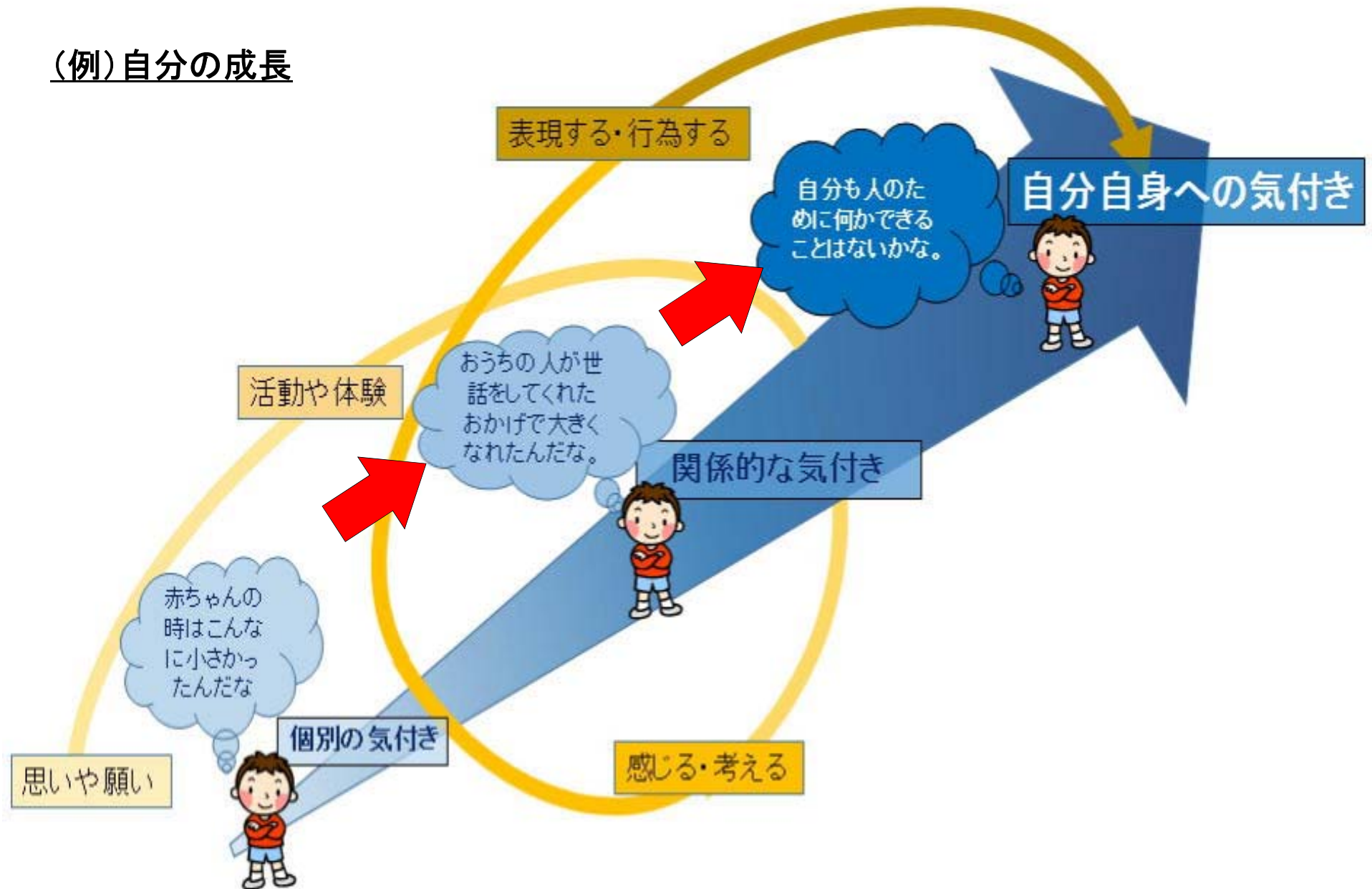
内容の取扱いについての配慮事項 (p66)

- 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うようにすること。

※「試す、見通す、工夫するなど」を新たに加え、一層の充実を図る。

学習過程と気づきの質の高まり

(例) 自分の成長



評価の在り方 (p88)

※結果よりも活動や体験そのもの、すなわち**結果に至るまでの過程を重視**すること。

※学習過程における児童の**「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」**を評価する。